

(6)
支那事情
滿洲
五

S 1.1.1.0 - 27

2952

0269

REEL No. A-0223

0144

アジア歴史資料センター

(イ) 一般狀勢、、、、三二頁
 (ロ) 蘇聯方面ヨリノ治安攪亂工作、、、、三三頁

第一概言

今次事變勃發以來滿洲國ニ於テハ日滿議定書ノ精神ニ則リ官民一致帝國ヲ支持援助シツツアリ即滿洲國政府ニ於テハ事變勃發直後滿洲國民衆ニ對シ諭告ヲ發シ日滿共同防衛ノ大義ニ基キ官民相結束一糸亂レズ全面的ニ日本ヲ支援スベキ旨ヲ諭シ更ニ九月十五日ニハ滿洲國皇帝陛下ヨリ「爾三千萬民衆ハ宜シク盟邦膺懲ノ大義ヲ体シ以テ一德一心ノ真義ヲ發揚シ其ノ全力ヲ舉ケ以テ共同防衛ノ精神ヲ貫徹スヘシ」トノ御趣旨ノ詔書ヲ發シテ現ニ滿洲國軍隊ノ一部ハ熱河省境方面ニ出動察南治安工作ニ任シツツアリ又同國政府ハ常ニ日本側ト密接ナル連絡ヲ保チテ或ハ鐵、石炭、液体燃料、金、「バルブ」等ノ資源開發ニ努メ或ハ對外通商貿易ノ統制爲替管理ノ強化等日滿一体ノ具現ニ邁進シツツアリ。

滿洲國一般民心ノ動向トシテハ日滿官憲並ニ協和會ノ指導啓發宜シキヲ得タル爲一般滿人モヨク事件ノ真相ヲ理解シラルモノノ如ク極

S 1.1.1.0 - 27

2956

(0273

S 1.1.1.0 - 27

2955

(0272

メテ平穩ニシテ今更乍ラ日本軍行動ノ迅速果敢ナルニ驚クト同時ニ積極的ニ獻金等ヲナスモノモ尠カラズ朝鮮人ニ至リテハ當初ヨリ非常ナル熱心ヲ以テ日本ノ行動ヲ支持シ或ハ獻金ヲ爲シ或ハ時局大會ヲ開催シテ氣勢ヲ擧ゲ進ンデ義勇兵志願ヲ爲ス者ヲモ存スル狀況ニシテ白系露人モ之ト同様ナリ

尤モ事變發生以來支那方面及蘇聯方面ヨリ不逞分子ガ滿洲國內ニ潛入シ人心攪亂ヲ計リタル形跡アリソノ爲カ事變ノ初期ニ於テハ匪賊ノ活動幾分旺トナリ又鐵道破壞等ノ「テロ」行爲モ若干發生シタルモ之等モ日滿官憲ノ努力ニ依リ漸次常態ニ復シ今年ノ治安狀況カ例年ノソレニ比シ特ニ惡化セリト認ムルヲ得ズ、現ニ滿洲國治安部ノ調査ニ依レハ康德三年（昭和十一年）八月中ノ匪賊現出回數四、七〇五、現出匪首數一、四七五、現出延匪數一九一、〇一七現出實數四〇、四三六ニ對シ康德四年（昭和十二年）八月中ノ數字ハ夫々三、三五六、〇、七八四、一三一、一一五、二七、〇三ニト減少ヲ示シ

S 1.1.1.0 - 27 2957

C274

ヲレリ。

又國內ノ金融經濟狀況モ格別ノ動搖ナク重要諸政策ハ豫定通り着々進捗シツツアリ特ニ對非常時關係諸制度ハ却テ事變ニ依リ促進強化ヲ見ルニ至レリ。

蘇滿國境モ乾岔子島事件一段落ヲ告ゲタル後格別ノ事件ナク蘇側ハ無氣味ナル沈黙ヲ續ケタル狀態ニシテ極東蘇領内兵力ノ大移動モ認めラレズ專ラ守勢ニ立チテ事態ヲ觀測シタルモノノ如ク滿蒙國境亦一般ニ平穩ナリ。

S 1.1.1.0 - 27 2958

C275

第二、滿洲國政府ノ協力

支那事變勃發スルヤ滿洲國政府ニ於テハ日滿共同防衛ノ趣旨ニ則リ終始帝國ノ方針ニ積極的協力ヲ爲シ來リタルカ其ノ主ナルモノ左ノ如シ

(一)七月二十日 滿洲國國務總理大臣ハ左ノ聲明ヲ發セリ

國務總理大臣聲明

華北民國軍ハ久シク赤化ノ魔手ニ操ラレ節度ヲ失シ公理ヲ解セス内
外人民ノ怨府タリシカ暴慢ノ募ル處終ニ駐屯日本軍ニ對シ不法攻撃ヲ
敢テシ又無辜ノ日本僑民ヲ迫害シ亡狀寔ニ收拾スヘカラサルモノア
リ之ニ對シ南京政府ハ徒ラニ糊塗背信ヲ事トシテ何等善處ノ誠意ヲ
示ササルノミナラス却テ日本軍ニ對シ不逞ノ攻勢ヲ執ルニ至リ爲ニ
隣忍自重シ來レル日本軍モ遂ニ之カ膺懲ヲ決意シ今ヤ自衛ノ爲華北
ノ肅正ニ當ラントスル形勢ニ在リ固ヨリ無節度ノ亂兵ヲ以テ精銳日
本軍ニ抗敵セントスル如キ螳螂ノ斧ヲ揮テ龍車ニ向フト同シク況ン

ヤ逆ヲ以テ正ニ抗スルヲ得サル天理ヨリ言フモ勝敗ノ數ハ既ニ分明
ニシテ日ナラスシテ亂兵ノ驅逐潰滅セラレ事態明朗ニ歸シ華北人民
ノ起死回生ヲ見ンコト期シテ俟ツヘシ我國ハ日滿共同防衛ノ大義ニ
基キ官民相結束一糸亂レス全面的ニ日本國ヲ支援スルハ勿論必要ニ
應シアラユル協力ヲ吝マサルノ覺悟ヲ堅持スルモノニシテ尙政府ハ
此ノ際ニ當リ無知我愆ノ輩カ或ハ流説ヲ傳ヘ或ハ私利ヲ計リ徒ラニ
國民生活ヲ攪亂スル如キアラハ之ヲ彈壓スルニ於テ假借スル所ナキ
ニ付全國民善ク其ノ堵ニ安ンシ隨時官憲ノ指示ニ從フト共ニ其ノ業
ニ精勵スルヲ要ス

(二)七月二十日治安部大臣ハ左記趣旨ノ佈告ヲ發シ今次事變ニ際シ滿洲
國人カ其言動ヲ慎ム可キコトヲ諭シタリ

國民一般ハ宜シク冷靜政府ノ處置ト盟邦ノ實力トニ信頼シ各安居樂
業シ苟クモ謠言ニ迷ハサレ輕舉妄動スル事ナキヲ要ス
蓋シ民國側ニ在リテハ理義實力共ニ抗スヘカラサルヲ察シ濫リニ陋

策奸計ヲ弄シ我國內ヲ擾亂シ我カ民心ヲ誑惑スルコト免レ難シ
 今我國人ニシテ萬一民國ノ使喚誘惑ニ乘セラレ不逞ノ志ヲ以テ治
 安ヲ紊ルノ徒輩アラハ固ヨリ峻嚴之ヲ處斷シテ秋毫モ假借スル所
 無カルヘシ過般恩赦ノ大詔煥發セラレ聖恩洪大底ラサル所無シ此
 ノ至仁至慈ニ背キ時局ノ緊逼ニ乘シテ害ヲ國家ニ加ヘ累ヲ盟邦ニ
 及ホスカ如キハ大逆暴戾神人共ニ許ササル所ト謂ハサルヘカラス
 更ニ又民衆ノ輕卒不用意ノ言動ニシテ治安ノ擾亂ニ該ルモノハ假
 令叛逆違法ノ意ナシト雖モ時局ノ重大性ニ鑑ミ制規ノ法條ニ照シ
 テ處斷セララルルヲ免レサルヘシ國民一般夫レ自肅自戒苟クモ刑辟
 ニ觸レ悔ヲ招クコト勿レ
 一日滿兩國ノ軍事上國防上又ハ外交上ノ秘密ヲ搜索シ又ハ漏洩ス
 ルコト
 二私カニ武器彈藥ヲ製造シ又ハ收藏スルコト
 三謠言ヲ流布シ民心ヲ惑亂スルコト

四物資ヲ不當ニ買占メ賣惜ミ投賣シ其他經濟界ヲ擾亂スルコト
 (三) 滿洲國皇帝陛下ニ於カセラレテハ七月二十八日 天皇陛下ニ對シ
 奉リ北支事變ニ關シ御軫念遊ハサレ居ラルルコトノ御見舞ト共ニ
 滿洲國ニ於テハ此ノ非常時ニ際シ全國民ヲ率ヒテ日滿一体不可分
 ノ精神ヲ益々發揮センコトヲ期スヘキ旨ノ御親電ヲ發セラレ之ニ
 對シ 天皇陛下ヨリ御鄭重ナル御返電アリタリ
 (四) 七月三十日滿洲國國務總理大臣張景惠氏ハ廣田外務大臣宛左ノ電
 報ヲ發セリ
 今次ノ北支事變ニ對シ貴帝國ノ東方平和ノ爲ニ大義ヲ展ヘテ暴戾
 ヲ制シ公道ヲ北支ノ天地ニ廣被サレシコト國ヲ擧ケテ慶賀スルト
 共ニ一徳一心ノ聖旨ヲ体シ全力ヲ竭シテ盟邦ノ爲其ノ至誠ヲ捧ケ
 ントス全國民皆貴國ノ善處ニ期待シ安居常ノ如シ休神ヲ祈リ謹ミ
 テ閣下ノ御健康ヲ祝ス
 右ニ對シ廣田外務大臣ハ八月二日左ノ返電ヲ發セリ

今次ノ北支事變ニ對シ御懇電ヲ賜ハリ感佩ニ堪エス今ヤ我國ハ東洋平和ノ確立ニ邁進スヘク上下一致益々其ノ決意ヲ堅クシツツアリ今後日滿一体ノ善ニヨリ貴國ノ御協力ニ恃ツ所大ナリ茲ニ謹ミテ兩國邦交ノ敦睦ヲ祈リ閣下ノ御健康ヲ祝ス

(四) 滿洲國ニ於テハ時局ニ鑑ミ七月三十日ヨリ八月二日迄全滿防空演習ヲ實施セリ

(六) 滿洲國當局ハ日本側ト密接ナル連絡ヲ保チ八月三日經濟部令及治安部令トシテ「暴利取締ニ關スル件」ヲ制定シ以テ時局ニ伴フ不當ナル物價騰貴及奸商ノ跳梁防止ノ措置ヲ講セリ

(七) 今次事變ニ當リテハ日滿共闘防衛ノ大義ニ則リ滿洲國軍ノ一部ヲ熱河省境方面ニ出動八月二十九日察哈爾省赤城ニ入城察南ノ治安工作ニ任シツツアリ新聞報ニヨレハ同隊司令部ハ十月一日宣化ニ入城セル趣ナリ

(八) 滿洲國皇帝陛下ニハ時局ヲ御軫念遊ハサレ九月十八日滿洲事變第六週年記念日ニ際シ左ノ詔書ヲ煥發セラレタリ

詔書(譯文)

奉天承運大滿洲帝國皇帝、詔シテ曰ク茲ニ盟邦大日本帝國ト一徳一心ノ眞義ヲ發揚シ、共同防衛ノ精神ヲ貫徹シ、以テ東亞全局ノ安定ヲ期スルカ爲ニ、爾三千萬民衆ニ告ク、維レ我カ滿洲帝國ノ國基ヲ奠定スルヤ、仁愛ヲ以テ政本トナシ、忠孝ヲ以テ教本トナシ、盟邦ノ仗義援助ニ頼リ、國是以テ定マリ庶績咸ナ熙マリ、彝倫敘スルトコロ民俗日ニ厚シ、朕敢テ暇豫セス、夙夜惕厲、惟々益々徳業ヲ修メ、盟邦ノ心ヲ以テ心トナシ力ヲ東亞ノ和平ニ盡サンコトヲ願フ、乃チ中華民國政府ハ南京ニ遷移セシヨリ以來、東方面有ノ文化ヲ蔑棄シ抗拒排斥ヲ以テ其ノ宣傳ノ號召トナシ、自ラ長城ヲ壞テ容共ノ門戸ヲ啓キ、屢々事端ヲ構ヘテ偏執悛メス、竟ニ我カ盟邦ト鬩ヲ挑ム、盟邦夙ニ其ノ情ヲ閱レミ、推誠十年、寬厚之ヲ待ツ、事既ニ此ニ至ル勢已ムコトヲ得ス膺懲ノ師ヲ出シテ其ノ暴戾ヲ撻ツ、固ヨリ其ノ民ヲ敵ト

御名 御璽

康徳四年九月十五日

國務總理大臣副署

スルニ非ス、乃チ其ノ國ヲ誤リ民ニ殃シ東亞ヲ擾亂スル者ヲ除カント欲スルナリ、名正シク事順ヒ、神人與スル所山川震蕩シ、堅銳皆摧ク、公報翔實記載徹スヘシ、爾衆庶宜シク盟邦膺懲ノ大義ヲ體シ、我國當務ノ重任ヲ念ヒ、上下相助メ各々職事ニ奮ヒ、協和親睦、衆志城ヲナシ、國維ヲ振張シテ以テ一徳一心ノ眞義ヲ發揚シ、其ノ全力ヲ舉ケ以テ共同防衛ノ精神ヲ貫徹スヘシ、何ノ艱阻ニモ任エ當ニ盟邦ト相共ニ東亞ヲ奠定シ同シク郵治ニ臻ルヲ庶幾スヘシ、凡テ爾民衆永ク矢テ渝ラサレ、之ヲ欽メ

0283

S 1.1.1.0 - 27

.2965

0282

右ニ對シ九月二十四日在滿澤田參事官ハ植田大使ノ代理トシテ滿洲國張國務總理大臣ヲ訪問廣田外務大臣ヨリノ左ノ趣旨ノ謝意ヲ傳言セリ

今次事變勃發スルヤ滿洲國政府ニ於テハ官民相結束シ全面的ニ帝國ヲ支援スル旨ヲ聲明スルト共ニ其ノ國軍ヲ國外ニ派シ帝國ノ作戰ニ協力シ以テ兩國共同防衛ノ實ヲ舉ゲ居ル處皇帝陛下ニハ去ル十八日滿洲事變第六週年紀念日ニ際シ三千万民衆ニ對シ日滿一徳一心ノ眞義ヲ發揚シ東亞全局ノ安定ヲ期ス可キ旨ノ詔書ヲ煥發アラセラレタル趣拜聞シ滿洲國ガ國ヲ舉ゲテ帝國ノ大義宣揚ニ協力スル次第感謝ニ堪ヘス

尙十月二日 勅令ニヨリ「支那事變ノ爲國軍又ハ日本國軍ニ從軍シタルモノニ對スル租税ノ減免等ニ關スル件」制定即日施行セラレタリ

S 1.1.1.0 - 27

.2966

第三、一般國民ノ支援

(一) 滿洲國ニ於テハ事變勃發以來政府ノ指導ニ從ヒ國民一致シテ盟邦日本支持ノ態度ヲ表明シ來リタルカ殊ニ此點ニ關シテハ協和會ノ活躍目覺シキモノアリ或ハ講演會ヲ催シ傳單ヲ配付シ或ハ「ラデオ」ノ設置新聞購入ノ計畫等ニヨリ一般民衆ノ時局ニ對スル正確ナル認識涵養ニ獻身ノ努力ヲナシツツアリ。

(二) 其結果トシテ全滿各所ニ於テ自發的ニ市民大會又ハ省民大會等ヲ催シ多數滿人會合シテ日本支持ノ氣勢ヲ擧クルニ至リ八月二十三日ニハ新京ニ於テ滿洲國々民大會開催サレ左ノ如キ皇軍感謝文ヲ議決シテ大イニ氣勢ヲ擧ケタリ

皇軍感謝文

混迷支那ノ現狀ヲ打開シ四億同胞ノ痛苦ヲ芟除シ日滿提携ノ礎石ヲ定メ興亞ノ聖業達成ノ爲ニ炎熱ノ下各地ニ轉戰健闘サレツツアル日本軍將士ノ御苦勞ニ對シ我等三千萬滿洲國民ハ滿腔ノ敬意

(三) 滿洲國ニ於テハ日本ノ爲替管理強化ニ適合セシムル爲十月八日勅令ヲ以テ「爲替管理法中改正ノ件」ヲ公布即日實施セリ
ソノ骨子ハ日本ヲ除ク第三國ニ對シ(一)輸入爲替許可制ノ採用(一)ケ月ヲ通ジ一千圓以上ハ許可ヲ要ス(二)無爲替輸出入ノ管理(三)證券ノ輸出入管理(四)信用狀取得ノ取締(五)國外送金ノ取締強化ヲ行ハントスルニアリ

ト感謝ヲ捧ク

(三)更ニ九月十三日滿洲國協和會第四回全國聯合協議會ハ左ノ通り時局ニ關スル日滿軍警ニ對スル感謝文ヲ決議セリ

日滿軍警ニ對スル感謝文(譯文)

竊ニ惟フニ我國ハ建立茲ニ五載諸般ノ施設日ニ進展ヲ見ル、治安ノ確保ト四民ノ業ヲ樂シムヲ得ルハ皆日滿軍警晝夜ノ活動奮闘辛勞ノ賜ニ由ル、茲ニ我滿洲帝國協和會ノ第四次全國聯合協議會ヲ開催スルニ當リ代表等ハ緊急動議ノ決議ニ據リ謹ミテ我忠勇奮戰ノ護國ノ日滿軍警ニ對シ謝意ヲ述フ

吾協和會員ハ中心トナリ更ニ鞏固ナル銃後ノ支援ニ當ランコトヲ願フト共ニ國家ノ爲益奮闘セラレンコトヲ希望ス
謹ミテ感謝ノ意ヲ表ス

昭和十二年九月十三日
康德四年九月十三日

0287

S 1.1.1.0 - 27

2969

0286

滿洲帝國協和會全國聯合協議會

大日本帝國駐滿特命全權大使 閣下

(四)更ニ九月三十日保定、滄州陷落ヲ祝フ爲新京大同公園ニ華北大戰捷祝賀國民大會ヲ開催セルカ同大會ハ日本政府竝ニ北支派遣軍最高指揮官ニ對シ左ノ通り感謝文ヲ議決シタリ

感謝文

我等ノ敬愛スル日本軍ハ事變發生以來作戰用兵神ノ如ク屢々世界戰史ノ記録ヲ凌キ武勳赫々能ク東亞ノ安定努力タル中外ノ信頼ニ應フ

今次更ニ保定、滄州ヲ陷レ中原ノ形勢既ニ定マリ暴戾容共國民黨ノ沒落日蹙ノ間ニ迫リ北支明朗化ノ機運既ニ全キニ到ル

我等滿洲國三千萬民衆ハ國都新京大同公園ニ相會シテ華北大戰捷祝賀大會ヲ開催シ日本軍將兵諸彦ノ御勞苦ニ感謝シ萬歳ヲ絶叫シテ斯ノ吉報ヲ悅フノ情切々タルモノアリ、日滿一德一心ノ大義ヲ

S 1.1.1.0 - 27

2970

履ミ益々舉國結束ヲ堅クシ統後ノ責務ヲ全ウシテ諸彦後顧ノ憂ヲ
一掃セントス

謹ミテ感謝慶祝ノ意ヲ表ス

康徳四年九月三十日

華北大戰捷祝賀大會

(五)尙滿洲國ニ於テハ日本内地ト相呼應シ十月十三日ヨリ十九日迄ヲ
國民精神總動員週間トシテ全滿一齊ニ精神作興運動、統後ノ後援
ノ強化持續及非常時經濟政策ヘノ協力ヲ計リタリ

0289

S 1.1.1.0 - 87

2971

0288

第四、民心ノ動向
(1)朝鮮人

一般ニ滿洲國在住朝鮮人ハ今次事變ニ關スル帝國ノ行動ニ滿腔ノ
信賴ヲ寄セ帝國カ不信不法ノ行爲ヲ反復シ以テ東洋平和ヲ攪亂ス
ル中國ヲ徹底的ニ膺懲シ之ヲ反省セシムベク斷乎タル態度ニ出ズ
可キハ當然ナリトノ意嚮ヲ表示シ居ルノミナラズ彼等モ帝國ノ一
員トシテ此ノ機ニ際シ安閑タルヲ得ズ自ラ奮起シ統後ノ國民トシ
テ時局ニ當リ帝國ノ所信斷行ニ遺憾ナキヲ期セザル可カラズトナ
シ、一致團結シテ其ノ赤誠ヲ披瀝スルノ氣風誠ニ旺ナルモノアリ
彼等ノ時局認識ニ就テハ當局官憲ノ日常ニ於ケル指導誘掖ノ致ス
トコロ勿論ナリト雖又一面此ノ機ニ際シテ朝鮮人中ノ指導的地位
ニアル者ガ自發的ニ卒先奮起シテ一般朝鮮人ノ自覺ヲ喚起シタル
ニ依ル所大ナルモノアリ
就中奉天ニ於ケル時局懇談會ニ於テハ朝鮮人が帝國ノ臣民ナリト

2972

S 1.1.1.0 - 87

雖モ未ダ兵役義務ヲ課セラレ居ラザルニ願ミ自ラ當局ニ朝鮮人義
勇兵ノ募集ノ請願ヲ決議シ安東ニ於テモ其ノ成行ニヨリテハ之ト
呼應スルノ態度ヲ表示シ居ルガ如キハ特筆スベキ事項ナリ。其他
奉天ニ於ケル朝鮮人有志十四名ガ國防獻金一千百十五圓ヲ獻納シ
タルヲ始メトシ各所ニ國防獻金、皇國將兵ニ對スル慰問品募集ノ
企テ等行ハレ在滿朝鮮人ハ欣然之ニ參加シツツアリ。又安東地方
ニ於テハ時局認識ノ結果朝鮮人青年中防護團加入希望者續出シ内
地人側ニ多大ナル感激ヲ與ヘツツアリ。又新京奉天等ノ朝鮮人婦
女子ニ於テハ國防婦人會ヲ組織シ統後ノ守リトナリ皇軍慰問品募
集等ニ努力シツツアルガ斯ル事實ハ誠ニ朝鮮婦女ノ一大覺醒ト稱
ス可キナリ。又琿春縣下黒頂子分署管内蘇滿國境地帯在住鮮人ノ
大部分ハ往年我カ西比利亞派遣軍撤退ノ際沿海州方面ヨリ引揚ケ
タル者ナル處今次北支事件ニ對シ本事件ノ擴大ニ伴ヒ必スヤ蘇聯
ハ中國ヲ援助スヘク日蘇ノ開戦ハ必然ナルヘシ日蘇開戦セハ吾々

ハ第一着ニ軍ニ從ヒ再ヒ沿海州方面ニ移民スル覺悟ナリト稱シ日
蘇開戦ノ速ナルコトヲ希望シ居ル者アリ。此點ニ關シ最近蘇聯ガ
對日滿戦ヲ豫想シ沿海州在住ノ朝鮮人ヲ輿地ニ大量移住セシメツ
ツアル事實ハ在滿朝鮮人ヲ憤激セシメツツアリ。
要之スルニ滿洲事變ニ依リ日本依存ノ必要ヲ感シタル在滿朝鮮人
ハ今次事變ニ依リ愈々其ノ念ヲ昂メタリト認めラル。

(四) 滿人

事變勃發當初一部滿人中ニハ煽動、謠言、真相不明、建國前ヨリ
ノ惡因縁、山東河北方面ニ財産故郷ヲ有スル關係又ハ一時經濟界
ノ變動等ニ累セラレ動搖ノ兆アリタルモ其後當局ノ善慮ニ依リ次
第二人心安定シツツアリ尤モ表面ハ平靜ニ見受ケラルルモ時局ノ
推移ニ對シテハ異常ノ關心ヲ持シツツアル模様ニシテ一般ニ北支
ノ戰禍ガ一刻モ早ク平靜ニ復サンコトヲ希望シツツアルモノノ如
シ。

ルモ表面的ニハ其ノ言動ヲ憶ミラル状態ナリ。此點ニ關シ間島岩管内ノ加奈陀長老派宣教師等ガ一般信徒ニ對シ流言蜚語ニ惑ハズ口舌ヲ熾ミ日滿當局ニ信賴シ夫々事務ニ精勵スベシト説示シタル旨竝ニ同ジク天主教神父ガ今次ノ日支衝突ノ背後ニハ「コミンテルン」ガ重大ナル役割ヲ以テ動キツツアルコトハ火ヲ見ルヨリモ瞭カニシテ日本ハ暴戾支那ヲ征討スルト同時ニ東洋延テハ全世界ノ平和ヲ攪亂スル蘇聯ヲ膺懲セザル可カラズ事態愈々最悪ノ境ニハ日獨防共協定ニ基キ日獨共同防衛手段モ講ゼラルルモノト豫想セラルト語りタル事實アル趣ナリ

ハ) 白系露人其他外國人

然シテ滿人中内鮮人同様自發的ニ日本ニ對スル國防獻金或ハ北支出征皇軍慰問金等ヲ豫出スルモノ勢カラズ。又滿洲各地ニ於テ軍馬ノ徵發アリタルガ右ハ農作物收穫期中ノコトトテ滿人農民ニ對シ相當ノ痛棒ナルガ如ク思料サレタル虞事實上農耕ニハ左迄ノ支障ヲ生ゼズ且又豫想外ノ高値ニテ買上ゲラレ直接現場ニテ金錢ヲ入手シ得ルノミナラズ馬匹検査ニ當リテハ日常ヲ支給セララル等ノ待遇ヲ受ケ一般農民ハ寧ロ滿悅ノ態ニテ何等惡影響ナキ狀況ナリ

白系露人其他外國人
白系露人ハ專變ノ真相判明ニツレ益々日本側ヲ支持、皇軍ヲ信賴シ徹底的ニ支那側ヲ膺懲シ後顧ノ患ナカラシメ然ル後全力ヲ蘇聯ニ向ケラルルニ至ランコトヲ希望シラル狀況ナリ。

其他ノ第三國人ハ大部分基督教宣教師及同教會附屬學校教師等ナルカ彼等ハ事件ノ成行ニ不尠關心ヲ以テ注視シ居ル様見受ケラル

第五 治安狀況
（一）一般狀況

事變後匪襲ハ其ノ數ニ於テ例年ト大差ナキモ（建國當初ニ十數萬ヲ算シタル匪賊モ現在ハ一萬一千餘ニ過ギズ）共匪ノ性質ヲ帶ブルモノ増加シ且日本人ヲ目標トスル傾向顯著ナルモノアルハ注意ニ値ス。尤モ匪賊ノ活動ハ六、七月最モ盛ナリシモ三江省方面ヘノ日本軍増強ニ依リ八月以降著シク減退セリ。共匪ノ性質ヲ帶ブル匪賊ノ増加シタルコトハ蘇聯及支那側共産黨ノ謀略支援ノ積極化ニ依ルモノノ如ク殊ニ事變當初頻發セル蘇聯接壤地域タル三江省竝ニ支那側ト關係深キ熱河省、錦州省等ニ於ケル滿洲國軍警背反逃走合匪等ノ事件ハ大部分蘇支兩方面ヨリノ使嫉謀略ニ出デタル證據歴然タルモノアリ（尤モ中ニハ日本軍敗退ノ謠言ニ惑ハサレ又ハ滿軍内部ノ肅正改編ニ恐怖ヲ感ジタルニ依ル場合モアリ）又鐵橋ノ破壊（四平街南方滿井橋）列車ノ襲撃（哈爾濱新京間）

S 1.1.1.0 - 27

2977

0294

沿路ノ破壊等鐵道事故モ相當數ニ上リ大連哈爾濱間主要線ニ迄進出シ居リ其ノ多クハ事變ト關係アル計畫的行爲ナルガ其ノ後當局ノ嚴重適切ナル取締ニ依リ漸減シ今日ニ於テハ別ニ憂慮スベキ狀態ニアラズ
次ニ今次事變勃發以來ノ治安關係事件ノ中報告ニ接シタルモノヲ列擧スレバ左ノ通り

- （一）七月十二日濱江省寧安縣三道河子森林警察隊員一五〇名兵變ヲ起シ日系指導官ヲ虐殺シテ脱走セリ
- （二）七月十八日奉天省清原縣ニ於テ紅軍約百名ト交戦、我討伐部隊ノ岡田少佐以下八名戦死
- （三）七月二十一日滿鐵本線泉頭滿井間ニ於テ列車脱線傾覆即死四、重傷傷六五
- （四）七月二十二日柳條溝附近ニテ滿鐵電話線ニ滿人二名攀登リ電話線ヲ切斷セントシアアルヲ未然ニ發見セリ

S 1.1.1.0 - 27

2978

0295

- (五) 七月二十四日安奉線南坡驛附近ニテ列車運行妨害セララル
- (六) 七月二十五日京濱線第二松花江鐵橋警備隊哨舍人數不詳ノ匪賊ニ襲撃セララル、鐵橋ニハ損害ナカリシモ警備隊員一名戰死
- (七) 七月二十八日濱洲線札羅木得驛附近鐵道線路上ニ枕木ヨリ脱シタル大釘五本ヲ「レール」ノ網目ニ並ベアルヲ發見
- (八) 八月一日三江省富錦縣城約二千ノ匪賊ニ包圍セラレタルモ日滿軍警ノ討伐ニ依リ匪賊ハ漸次後退ス
- (九) 八月一日三江省富錦縣第六區對面城朝鮮人部落匪襲ヲ受ケ自衛團武裝解除サレ銃器彈藥ヲ掠奪セラレタリ
- (十) 八月一日三江省依蘭縣馬涉屯自衛團員匪賊四十名ノタメ武裝解除サル
- (十一) 八月七日熱河省承德縣鐵鑛調査中ノ滿鐵社員四名匪賊ニ拉致サル。十九日救出。
- (十二) 八月十一日三江省勃利駐屯滿軍二十四名通匪逃走

- (十三) 八月十五日牡丹江省寧安縣、關東軍經理部留學生一名匪賊ニ拉致サル
- (十四) 八月十六日三江省湯原縣下ニテ第六次移民團員三十名匪襲ヲ受ケ四名戰死、重輕傷八名
- (十五) 八月十七日三江省三姓縣城內滿軍遊擊隊二十名背叛
- (十六) 八月十八日奉天省東豐縣橫道河子ノ日軍守備隊三十名ハ匪賊約三十名ト遭遇之ヲ撃退。
- (十七) 八月二十二日奉天省山城鎮ニ匪賊約二十名侵入セントセルモ自衛團ニヨリ撃退セララル
- (十八) 八月三十一日三江省依蘭縣滿軍二百名叛亂逃亡
- (十九) 八月三十一日錦承線太平房滿軍七十名逃亡
- (二十) 九月一日安東省大孤山ニ於テ丁抹宜教師「ボールキック」匪賊ニ拉致セララル。十月十六日救出。
- (二十一) 九月六日奉天省清原縣南城山子ニ紅軍匪約七十名襲撃

(ロ) 流言蜚語

- ④ 九月九日牡丹江省牡丹江市附近集國部落ニ共匪約四十名襲撃
- ⑤ 九月二十九日間島省琿春附近ニ共匪十一名襲撃、住民ヨリ殺類ソノ他ヲ掠奪逃走セリ
- ⑥ 九月三十日錦州省朝陽縣ニテ滿洲國討伐隊ハ匪賊約三百名ト遭遇之ヲ擊退ス。
- ⑦ 十月二日三江省富錦縣ニテ日軍討伐隊ハ匪賊二百名ニ對シ壯烈ナル乘馬襲撃ヲ敢行シテ全ク之ヲ殲滅セリ
- ⑧ 十月五日奉天省撫順縣城內「カトリック」教會ニ匪賊六名來襲米人宣教師「ドノバン」外滿人二名ヲ拉致、身代金五萬圓ヲ要求。
- ⑨ 十月九日奉天省本溪縣第三區小桃峪ニ於テ日軍約五十名ノ匪團ト遭遇之ヲ潰走セシム
- ⑩ 十月九日間島省琿春縣ニ共匪約二十名出現シ採金移民團ヲ襲撃

0299

S 1.1.1.0 - 27

2981

0298

- ① 事件發生當時ニ於テハ南京政府乃至中國共產黨系ノ宣傳ニ基ク流言蜚語滿人下層社會ニ相當行ハレタルモノノ如キモ其後日滿官憲ノ努力ニ依リ事態ノ真相闡明セララルニ伴ヒ漸次消滅セリ殊ニ當初滿人ニシテ南京上海方面ヨリ「ラヂオ」放送ニ迷ハサルモノアリタルタメ滿洲國當局ニ於テハ右電波攪亂策ヲ講ズルト同時ニ承德竝ニ安東ニ新放送局ヲ設置シ積極的啓發ヲ行ヒツツアリ
- ② 今試ミニ之等流言ノ中興味アルモノヲ列擧スレバ左ノ如シ
- (一) 前北支駐屯軍司令官田代中將ノ病死ハ虛報ニシテ同中將ハ對支穩健派ナル爲メ急進派部下將校ニ毒殺セラレタリ
- (二) 現在日支紛争勃發シ馬占山ハ滿洲ノ失地ヲ恢復スベク既ニ山海關ヲ超エタルニ依リ日本人ハ滿人ヲ殺害スベク井戸河川ニ毒劇藥ヲ投ジ或ハ滿人ノミヲ殺害スル熊數千頭ヲ滿洲内ニ放逸スル計畫アリ
- (三) 日支戰フニ於テハ蘇聯ハ北滿ヨリ進撃シ來リ米國ハ太平洋ニ戰

S 1.1.1.0 - 27 2982

容ヲ逆宣傳スルト共ニ日本軍事輸送ヲ探查即報セシメ對日作戰ノ萬全ヲ期スル爲蔣介石直屬部隊タル特務隊員四十名ヲ滿洲國ニ密派セリトノ報道アリ

(二) 元馬占山部下トシテ昭和七年九月昂々溪地方ヲ襲撃セル匪首李海青ハ其後支那方面ニ逃走シ居タルガ今回南京政府ニ於テハ北支ニ於ケル日支關係緊迫ニ伴ヒ前記李海青ヲ反滿抗日聯合軍第一軍師長ニ特任シ莫大ノ軍資金ヲ携行セシメ滿洲國內ニ現存スル舊部下ヲ糾合シ以テ滿洲國內ニ於ケル治安攪亂ヲ斷行セシムベク企圖シツツアリトノ報道アリ

(三) 八月九日、十日ノ二日間ニ亘リ建昌縣東北方建平縣西方朝陽縣西方三縣界ニ於ケル地方一帯ニ於テ南京政府ヨリ派遣セラレタルモノト思料セラレル六名ノ便衣滿人ハ各部落毎ニ住民ヲ一定場所ニ集合セシメ「自分等ハ某方面ヨリ公務ノ爲メ派遣セラレタルモノナルカ之以上日支事變ガ擴大シタル時ハ自分等ノ計畫ニ基キ行動

備シ在ル艦隊ニ依リ日本ヲ撃チ佛、英、獨、伊等モ飛行機ニテ支那ヲ援助スル故日本ハ到底勝ツ能ハザル可シ

(四) 今回ノ日支事變ニ於テ中國軍ハ臺灣ニ上陸セルガ他方中國空軍ハ上海沖ニテ日本軍艦七隻ヲ爆沈セリ

(五) 香月司令官ハ大沽ニ於テ海底電線ヲ切斷セントシ支那軍ト日本軍トノ交戦中現場ニテ重傷ヲ負ヒ死亡セリ

(六) 田代司令官ハ日本政府ヨリ北支事變惹起ノ責任ヲ追求サレ加之香月司令官ト交替セシメラレタルヲ以テ自殺シタリ

(七) 馬占山ハ張學良ト共ニ目下黑河對岸「ブラゴエ」ニ根據ヲ有シ失地恢復ノ陰謀策ニ奔躍シツツアリ

(八) 便衣隊ノ潛入

今次事變勃發以來支那方面ヨリ便衣隊潛入シ流言ヲ放チ治安攪亂ヲ計リタル證據アリソノ事例ニ、三ヲ擧グレバ左ノ如シ

(一) 國府軍事委員會副委員長馮玉祥ハ蔣介石ト協議シ北支事變ノ内

第六、經濟狀況

金融經濟界共事變當初ハ多少一時的動搖ヲ見タルモ其ノ後次第ニ落付ヲ見セ今日ニ於テハ諸物價ガ日本内地ニ對應シテ一割乃至一割五分見當ノ昂騰ヲ見タルト對支輸出貿易ノ減退セル以外格別ノ變動ナク産業五年計畫移民事業治外法權ノ撤廢等重要國策ノ遂行ハ事變ノ爲却テ促進セラレタル感アリ又總動員計畫ノ實施、對外通商貿易ノ統制、暴利論言ノ取締、勞働者ノ入出國調整、資金ノ逃避防止、石油鐵材等軍需資材ノ確保、資源ノ開發、治安ノ維持等非常時關係諸制度施設モ事變ヲ機トシ急速ニ具現徹底ヲ見ツツアリ

ヲ共ニシテ欲シイ又其ノ節ハ銃器ヲ貸與シ相當ノ金錢モ支拂ヘル云々ト遊說シテ集合滿人ニ對シ一名拾錢ヅツ給與シ居レリトノ報道アリ

(四) 九月十二日承德驛構内軍需品集積所附近ニ舉動不審者徘徊シ居ル旨ノ密告ニ接シタル警務統制委員會ニ於テハ直ニ之ヲ逮捕シタルガ同人ハ宋哲元ノ密令ニ依ル便衣諜報謀略者ノ一員トシテ同志十名ト共ニ八月一日入滿苦力ヲ裝ヒ承德驛附近ニ於ケル日滿兩軍ノ動態調査竝ニ飛行場附近ヲ徘徊シテ空軍ノ狀況調査ニ努ムル傍ラ驛構内ニ於ケル軍需品集積所ニ放火シ後方ヲ擾亂スベク機ヲ窺ヒ居リタルモノノ如シ

第七、蘇聯ノ態度
①一般狀勢

滿蘇蒙國境方面ノ狀勢ヲ見ルニ事變後今日迄ノ處滿蘇國境附近ニ於ケル兵力ノ衝突ノ如キ無之ク唯僅ニ滿側及蘇側ノ帆船又ハ漁船抑留各一、二件蘇側ノ「ウスリー」江饒河附近島嶼ノ滿側航路標識撤去ヲ巡ル滿側汽船ト蘇側監視兵間ノ小競合等ヲ見タルニ過キス滿蒙國境亦平穩ナリ。他面國境方面蘇蒙兵ノ移動ヲ見ルニ國境部隊中後方ヨリ稍捕強セラレタルモノアルモ極東蘇領内兵力ノ大移動認メラレス又歐露方面ヨリノ兵力及食料等ノ補強ハナキ模様ナリ。之ヲ要スルニ國境方面蘇側動向ニハ目下ノ所別段積極化ノ傾向ハ認メ難ク寧ロ事變前後ヨリ蘇側ヨリ逃亡シ來レル軍人ハ政治將校一「ゲ、ベ、ウ」將校一兵卒二名ニ及ビ（此ノ外強制労働所ヨリ逃亡シ來レル者八、九名アリ）從來稀有ノコトニ屬スル處右ハ或ハ「ト」元帥銃殺事件及其ノ後ノ肅正工作ニ依リ醸成セ

0305

S 1.1.1.0 - 27

2987

0304

ラレタル極東蘇領内情勢不安定ノ結果ナラサルヤヲ疑ハシム尙最近ニ於テ注目スベキ事象ハ滿蘇國境地帯在住ノ鮮人強制移住ニシテ蘇聯當局ハ十數萬ニ及ブ之等鮮人ヲ大量的ニ奧地ニ移住セシメツツアリ其ノ眞意ニ付テハ種々ノ説アルモ斯カル冷酷ナル仕打ニ對シテハ鮮人間ニ相當ノ不滿アルモノノ如ク現ニ滿洲國內在住ノ鮮人中ニハ蘇聯膺懲ヲ叫ブ者尠カラス

②蘇聯方面ヨリノ治安攪亂工作

前述ノ如ク國境ノ方面ニ於テ蘇聯ハ消極的態度ヲ維持シタルモノノ裏面ニ於テハ第三「インター」ヲ通ジテ惡質ノ治安攪亂工作ヲ行ヒツツアルモノノ如ク事變勃發以來共匪ノ活動活潑トナリ又滿洲國軍警ノ背叛事件頻發セルハ蘇聯方面ヨリノ使喚ニ基クモノナルコト想像ニ難カラス此ノ點ニ關スル情報ニ、三ヲ例示スレハ左ノ通りナリ

①蘇聯ノ各種「テロ」工作指令ニ關シ次ノ通り情報アリ

S 1.1.1.0 - 27

2988

即チ蘇聯ノ「テロ」工作團ニ對スル指令ニ依レバ其主要任務ハ鐵道線、港灣施設、船舶、飛行機、水道、下水、發電所、電信電話、軍事工場、倉庫ノ破壊、兵器火藥ノ竊取、官憲及親日滿人ノ暗殺ナリト

○蘇聯ハ呼倫貝爾蒙古人ニ對シ日人ト蒙古人ノ疎隔ヲ企圖シ「日本ハ蒙古ニ日本人ヲ移民セシムルノ爲其ノ土地ヲ占有シ廳テハ蒙古人ヲ驅逐スルニ至ラン」ト反動運動ヲ惹起セシムベク宣傳示唆シアリトノ情報アリ。

○極東朝鮮人軍政委員長洪範道（元朝鮮獨立運動國民會首領）ハ日支事變ノ擴大ト支那國民ノ抗日強化ニ伴ヒ滿洲國ヲ攪亂シ赤化セシムベク計畫シ極東軍參謀總部ト協議ノ結果一九三五年「ハバロフスク」外三ヶ所ニ於テ紅軍トシテ軍事訓練ヲ與ヘタル朝鮮人青年ヲ滿洲國內各地ニ密派シ各革命軍ヲ援助シ攪亂ニ對スル諸般工作ヲ決行スベク決議シ之カ實施ノ爲メ馬德鐵（國防化

0307

S 1.1.1.0 - 27

2989

0306

學航空隊協會幹部)

外十數名ヲシテ第一回密派スベキ紅軍五十六名ニ對シ一ヶ月前ヨリ攪亂工作ニ對スル教育ヲ「ハバロフスク」ニ於テ實施中ナルガ十月中旬頃ニ一部「イーマン」國境ヲ經由入滿セシムル由ナリト

S 1.1.1.0 - 27

2990